

弾正塚

◆部垂の乱と内田弾正

天文九年（一五四〇）三月十四日、部垂城を小貫氏から奪って城主となった部垂義元が実兄の佐竹氏十七代義篤によって討たれた争いがありました。部垂の乱です。享禄二年（二五一九）から十二年もの間続いた佐竹氏の内紛でした。明治六年（一八七三）

に豊田重章によって

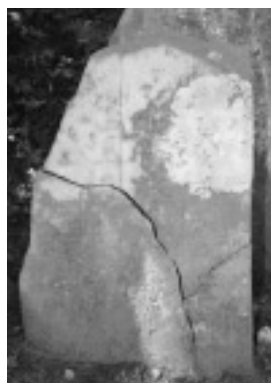
筆写された『部垂城御実伝』によれば、籠城戦となった部垂城側は小嶋氏と小瀬氏に援軍を依頼、二家は後詰めとして湯賀坂（抽ヶ台周辺か）と田子内に陣を張ったといひます。万全の備えで対峙していた部垂勢でしたが、黒沢大学の寝返りにより劣勢に立たされ、部垂城は落城、部垂義元は自害し、その子竹寿丸は黒沢大学によって殺害されました。後詰めの小嶋義宗、内田弾正も落城を知って、その場で自害したとされま

す。その場所が今に「弾正塚」と呼ばれ、石碑が建てられているところ

です。この内田弾正とはどんな人物なのでしょう

か。『緒川村史』によれば名を応之進

といい、小舟地区赤石に住したとされています。内田弾正の子孫である内田英雄家は「赤石」を屋号としています。今にその系譜が継承されています。小舟の内田家の墓域にある弾正の墓は高さ七〇cmほどで、正面に「天文九庚子年三月十五日」内田弾正源義兼之墓、背面に「蒙 国君之命以儒道祭祀」藩主の命によって儒道によって墓を祀った」と刻まれています。内田家の喜衛門（源昌廣）の代に建てたことも刻まれています。建碑の年代は定かではありませんが、江戸時代になってから供養のために建てられたと考えられます。



▲内田弾正の墓（小舟地区）

内田家の伝承では、内田弾正は小瀬城の家老で小舟城の城主でした。

天文九年の部垂の乱で、前述のように部垂城からの応援要請に応じて出陣したものの、途中の川が増水していたため遠回りしていかななくてはならなくなり、部垂城が見える場所まで来た時には城から煙が見えたため落城を悟り、その場で自害した、と伝えられています。また、その時十三人の家臣が従っていて、弾正の自害にあたって家臣は小瀬に返された

とも、共に自害して果てた、とも伝わり

◆守り伝えられる弾正塚

内田弾正が自害したとされる田子内町内には、地区の方々により弾正塚が祀られています。



▲弾正塚（田子内町内）

内田弾正自害の伝説は永く語り伝えられてはいましたが、特に供養碑などが作られていなかったことを嘆き、昭和二十六年に県会議員で旧緒川村出身の三村勇氏や当時の大宮町議会議長矢数欣三郎氏、そして地元田子内地区の住民有志によって石碑が建てられました。これが現在の弾正塚の石碑です。石碑正面には「内田弾正左衛門之墓」と刻まれ、背面に建碑の経緯が彫られています。では昭和二十六年以前はどうだったのでしょうか。

実はこの石、もともとここで祀られていたもので、地元の若者が担ぎ

あげて力比べをした「力石」だったのではないかとはいわれています。弾正塚を祀るにあたり、以前から内田弾正の供養石として意識されていたこの石に文字を刻んで供養碑にしたもの、とも考えられます。そういえば、ちょうど持ちあげやすそうな形です。



▲弾正塚の石碑背面

現在も毎年、命日の三月十四日には地元の高齢者クラブ「田子内親和会」の方々が、生垣の剪定、清掃をして花や線香を手向けたあと、集会所で飲食をして慰霊の会を行っています。

今年三月十一日に地震があったため、命日には慰霊祭はありませんでしたが、親和会の皆さんで掃除をし、供養が行われたそうです。
※井坂實男さん、内田英雄さんに聞き取り調査にご協力いただきました。

歴史民俗資料館大宮館

52-11450